

反帝国主義国際闘争の前進のために！  
先進的学友は社学同に結集せよ！

# 赤光

(しゃっこう)

№ 35

1967.10.21

社会主義学生同盟政治機関誌  
(マルクス・レーニン主義派)

## 目次

山崎博昭君を記念する	2
鮮血を旗に染めて前進せよ	4
一〇・二二反戦国際闘争	7
南ベトナム解放戦線新政治綱領	10
沖縄解放のために	14
レーニン主義と毛沢東思想	19
ロシア革命50周年記念集会への呼びかけ	26
歩哨	27

山崎博昭君を記念する

社会主義学生同盟(マルクス・レーニン主義派)  
中央執行委員会

京都大学一年生山崎博昭君は、一九六七年十月八日、日本帝国主義の官僚の手で虐殺された。この日早朝から、反戦青年委員会、全学連、日中友好関係諸団体を中心とした労働者、学生人民は、佐藤首相の南ベトナム訪問を裏力で阻止するため、羽田闘争に決起した。

羽田空港に結集した人民大衆は、支配階級が動員した機動隊と装甲車、警棒、放水、催涙弾の攻撃に一步もひるまず応戦した。若き戦士たちは、投石とコン棒で機動隊に反撃し、装甲車に火を放ち、次々と敵権力の暴力をうち砕いた。この行動は、日本帝国主義と佐藤首相の国際的威信を地にたたきつけ、日本人民の革命的気概を全世界に伝えた。

山崎君の英雄的気概と十・八闘争に寄せられた、世界の革命的人民の共感と連帯のメッセージは、プロレタリア革命派の固い団結をはっきりと証明している。

カイロ駐在の南ベトナム解放民族戦線代表は、羽田闘争への支持と山崎君への哀悼の意を、記者会見の談話で托した。また、南ベトナムの専制的な軍事政権と熾烈な闘争を続けているサイゴン学生連盟は、相互支援と共同闘争の声明を発表した。そして、毛主席のもと、プロレタリア文化大革命の勝利的前進をかちとっている中国人民は、北京旗送を通じて、全世界に日本人民の革命的行動を訴えているのである。

たゞ、国際帝国主義と支配階級のみが、あわてふためき、佐藤内閣の前途を危ぶみ、以前にも倍加する支配と抑圧を約束している。たゞ、現代修正主義と日和見主義の徒党だけが、敵権力と歩調を合せ、悪意にみちた中傷を浴せ、利敵行為を働いている。

これが、全世界で、十・八羽田闘争がつくりだしたプロレタリア革命派とブルジョア反革命派の分水嶺である。これが、人民大衆の革命的情勢と犠牲的精神に対する革命派と修正主義集団の違った態度である。

思い起してみよう。かつて一九五〇年、アメリカ帝国主義が国連軍をもって朝鮮侵略戦争を開始したとき、日本人民は日朝両国人民の不再戦の決意を宣言し、アメリカ帝国主義と吉田反動政府に血みどろの闘争をいどんだ。一九六〇年、日米支配階級が両国の軍事同盟を強化するため、安保改訂を強行したとき、日本人民は、同志韓美習子の犠牲にもめげずに、一大決戦を敢行し、岸内閣を打倒した。一九六五年、日本帝国主義が再び南朝鮮に介入し、朴政府と日韓領土地条約を結んだとき、日本人民は朝鮮人民の「韓日条約反対」運動を全面的に支持し、日本独占資本の侵略政策を徹底して暴露した。

こうして、一脈ならずプロレタリア国際主義の大旗を高く掲げ、死をも恐れぬ英雄的精神を発揮した日本人民は、いままた、解放戦争を闘っているベトナムの同志や、アメリカの反革命戦争に反対する世界人民と固く結びついた偉大な国際戦線を実現したのである。

山崎博昭君は世界の労働者階級、人民大衆の利益と解放のために生命を捧げた戦士である。恥知らずにも「自暴自棄だ」などののしっている日本共産党修正主義指導部は、自己の動揺と裏切りをこのようにしか表すことができないのだが、十・八羽田闘争を高く評価するわが隊列の中にも、山崎君が革共同、マル学同(中核派)に属していたことをもって、この闘争と彼の犠牲に曖昧な態度をとる諸君もいる。

確かに、我々は我々と革共同との間の境界線をいささかも覆い隠しはしないし、革共同が社会主義革命に對し首尾一貫した態度を欠いており、とりわけ社会民主主義的傾向を強めていることを、容赦なく暴露する。だがそうすることは、いくつもの革命団体の間の要求の統一、行動の統一を決して壊れるものではなく、むしろ、革命運動の巾を広げ、正しい革命団体に人民大衆が接近するのを促すことは、全く必要なことである。そして、山崎君のように革命運動の犠牲となった戦士を我々は永遠に記念するのである。

現在、日本の支配階級は帝国主義勢力圏をアジアに築きあげる野望を公然と明らかにしている。それと同様に、アメリカ帝国主義が日夜拡大しているベトナムの反革命戦争にますます深く結びつき、アジア諸国人民の抑圧を強めている。こうした帝国主義的支配は、どうしても人民大衆を自ざめさせずにはおかないし、どうしても人民大衆を組織的反抗に決起させずにはおかない。

支配階級はこの反抗を国家権力と暴力装置で抑圧している。だから、被支配階級は強くなる事を学び、武装する事を学び、敵階級の暴力を打ち壊す事によって、解放の事業を勝利させなければならないのである。その時、我々は山崎君が示した、革命に對する無私の献身と犠牲的精神がなによりも大切なものである事を深く確信している。我々は今、山崎君の屍を葬り、記念している。そして、世界社会主義革命のために隊列を固め、次々と敵階級を勝利し、前進して行くであろう。

隊列を固め、次々と敵階級を勝利し、前進して行くであろう。

鮮血を旗にそめて前進せよ

社会主義学生同盟  
(マルクス・レーニン主義派)

全部、全国の闘う学友諸君！

十月八日、日本反動ブルジョアジーの頭目佐藤首相の第二次東南アジア——ベトナム訪問阻止するべく、全学連の旗の下に全国の先進的、戦闘的学友は、反戦青年委員会に結束する労働者と共に、国家権力——機動隊の激しい弾圧に抗して、その阻止線突破して熾烈に闘いぬいた。山崎君の死はこの闘いに注いだ、我々の生命をかけた闘いの決意を示していたし、日本否、全世界の労働者人民のベトナム侵略戦争に反対し、佐藤の南ベトナム訪問に対する抗議の強さを示していた。山崎君の死は、このように労働者、人民の強固な反対を押し切つて南ベトナム訪問を強行した佐藤反動内閣によって引き起されたのだ。

表するとともに佐藤政府——国家権力——機動隊に断乎として抗議する。又、十・八闘争と山崎君の死に對して、国家権力と一体となつてデッチ上げと反動的キャンペーンを行なつてゐる全てのマスコミ機關に断乎として抗議する。我々は国家権力や反動的マスコミの反全学連、反学生運動、反実力闘争の徹底した弾圧にもかかわらず、ますます強固な実力闘争を展開するし、又そのような実力闘争の中で、我々の強さによって、唯一労働者人民の支持を得られることを知っている。(十・八闘争以後の続々と連絡されてくるカンパがその事を物語っている。)

我々が、我々の全てを尽して戦つた、十・八佐藤羽田阻止闘争は、公然たる国際的意義をもつた闘いであったことを、今や、我々ははっきりと確認できる。日本と全世界の反動的ブルジョアチャーナリズムが、真向うから我々の闘いに砲火を浴びせている時、日本と全世界の闘う人民は、無条件の支持と連帯を寄せてきている。我々は六〇年安保闘争以来、ようやく七年にして、全世界の労働者、人民、学生に闘いを呼びかける旗を闘いを成し得たことを、まず第一に確認しなければならぬ。日本帝国主义の國際的威信を地に叩きつけ、日本帝国主义階級を癡癡せしめ、東南アジア諸國人民、就中ベトナム人民、学生を、我々の國際的闘いをもって勇気づけたことを誇りをもつて確認しよう。

日本帝国主义者が、佐藤の一連の東南ア

シア諸國訪問に示されるような、侵略外交を行い、公然と東南アジア諸國人民と敵対する時代へ突入し、ベトナム学生連合の声明に明らかのように、日本ブルジョアジー支配階級が、東南アジア諸國人民共通の敵となりつつある今日、このことはとりわけ重要である。

従つて、十・八闘争は、我々の國際主義

と國際闘争を二つの意味で、質的に転換させた。第一に、日本帝国主义、支配者階級が東南アジア人民の共同の敵となつたこと、日本帝国主义をアジア人民の共同の闘いに

た反戦青年委員会、全学連の戦闘的労働者、学生連の固い決意によつてもたらされたものである。こうした階級的憤激を「赤旗まつり」へ解消することに、もっぱら力を注いでいた代々木共産党の歴史的役割は、ブルジョアキャンペーンの激化するなかで、ますます反革命の階級性を暴露されているのだ。

戦闘的労働者、学生連の闘いの前で震え上がった、ブルジョアジー支配階級の姿こそマスコミを総動員した反実力闘争——反全学連のキャンペーンに示されている。彼らのこの一大キャンペーンは、そして、予想される大弾圧は、彼らの強さを示すものでは少しもなく、弱さを示すものに他ならない。

十・二一佐藤ベトナム入り阻止闘争のサイゴン——東京闘争が、その具体的形態の國際闘争である。第二に、このような國際主義、國際闘争は、我々の死もいとわぬ実

戦闘的労働者、学生連を中心とした、戦闘的學生運動はまさしく、この全人民的な階級的憤激を一身に集中して、羽田闘争を闘つたのだ。従つて、我々の闘いは、一切の取り得る戦術を駆使したものとなつたし、弾圧も集中砲火となつてゐるのだ。

戦闘的學生運動が弾圧とマスコミキャンペーンが予想された(そして現実のものとなつてゐる)にもかかわらず、十・八闘争を、戦術的にも高く闘つたのは、この重さゆえであった。今や、戦闘的學生運動は、あの屈辱的なサンドイッチや、絶えず我々の行方を妨む機動隊の壁を突破することも、可能にした。十・八闘争を総括するにあつて、どうしてもこのことを重大な成果としておかなければならぬ。

力闘争の中に、ベトナム人民を始めとする各國人民との闘いの連帯をもち取る事ができる。この羽田の実力闘争はもっぱらその多くは、日本労働者階級人民の「佐藤の南ベトナムを訪問する」といった直感的不安、不満の高まりのエネルギーを集中し

日本帝国主义がアジアの支配階級として公然と登場せんとした、佐藤の第二次東南アジア訪問は、労働者人民の闘いへの大弾

早大、明治、東学館、法政いずれの学園闘争をとつてみても、我々が我々の權利一つ守るにも、我々の実力の闘いが必要になつてきていることを教えていた。ベトナム人民の解放闘争を公然と支持する學生運動を作ることには大きな力を注いできたのも、このことを目標としてであつた。屈辱的な闘いのなかで、戦闘的学友たちが学んできた成果こそ、十・八闘争に集約されたのだ。十・八実力闘争は「行き過ぎであつた」、

「挑発であった」等の反革命的言辭、日和見主義的言辭を弄するのではなく、学友たちの大きな一つの教訓として、この闘争を学友達に定着させて行くことが、今、全ての学生社会主義者に問われているのだ。もっと強力な武器、もっと多くの人民をかくとくすれば、我々は勝利するのだというこの教訓を学友達が学んだことを、十・八闘争を総括する際には、絶対に忘れてはならない。

十・二一闘争から、十一・一二闘争は、この十・八闘争を思想的にも、組織的にも受け継ぎ、発展させる闘いでなければならぬ。南ベトナムの学友たちと連帯して、佐藤のサイゴン入りに抗議し、それを阻止する闘いが、圧倒的な大衆闘争によって、勝ち取られなければならない。

十・二一闘争は、十・八闘争に見られた大衆的憤激を組織化し、抗議の行動として示さなければならない。

日韓闘争の時、南朝鮮学友が、日本の学生運動と呼応して、金外相をソウルへ引き寄せたように、我々が二一へ向けて突き進まなければならない。十・八闘争の成果

が全ての学友に判断をせまっている時、二一闘争への過程は、ますますそのことを鮮明に学友達へ突きつけられなければならない。

学友諸君！

十・八羽田闘争に代えた、サイゴンの学友達に再度闘いの連帯を送ろう！

十・二一佐藤のサイゴン入りを阻止しよう！

労働者、学生の十・八闘争によって生み出された情勢を一層促進し、反戦青年委員会、全学連を強化していこう！

十・二一、十一・一二闘争の勝利を勝ち取ろう！

全国の学友諸君！

鮮血を旗にそめて前進せよ！

### 「佐藤のサイゴン入り阻止」の圧倒的大衆闘争で 首都を埋め尽くせ！

10・8 羽田闘争の成果をさらに前進させよう！

全部、全国の先進的学友諸君！

十・八羽田実力闘争の成果をさらに発展させ、十・二一国際反戦統一行動、十一・一二佐藤訪米阻止闘争を圧倒的大衆闘争、実力闘争として進めよう！ これこそ、我々の今日の共通のスローガンとなった。

サイゴンの学友たちは、我々の十・八佐藤ベトナム訪問阻止闘争の偉大な闘いの確認の上に、佐藤のサイゴン入り阻止のための共同の闘いを呼びかけてきた。

十・二一国際反戦統一行動をステップに、十一・一二佐藤訪米阻止闘争へ至る当面の闘いは、十・八闘争の切り開いた新たな情勢を共通の確信としてさらに発展させ、十・八闘争のあの実力の衝突の中であって、争われたブルジョアジーの東南アジア侵略の野望をまさしく打ち砕く過程としなければならないのだ。

(+) 十・八闘争の意義と教訓

全部、全国の先進的学友諸君！ 次の三点を我々の共通の確信としなければならぬ。

一つ、日本帝国主義ブルジョアジーの東南アジア侵略への不退転の野望と、日本労働者、学生の堅い侵略粉砕の闘いの激突とであったこと。我々が、帝国主義者の野望を打ち砕くためには、そしてブルジョアジーがその野望遂行のために押し進めた日米強化しつつある状況の中で、我々の堅い決意と鋭い戦術が要請されているのであり、十・八闘争は、闘う学友へ重大な教訓を一つ付け加えたのであった。続く学園闘争、我々の権利・生活の防衛が、国家権力による機動隊の暴力によって粉砕された時以来、「大学への国家権力機動隊の動入——自治の侵害」に抗議し、悲しむのではなく、その暴力に打ち勝つ、我々の実力による闘いが要請されていたのであり、東学館闘争が部分的、一時的に見せた闘いの内容の深化、普遍化が、戦闘的學生運動に問われていた。十・八羽田実力闘争は、この普遍化を異なった戦場で、我々に教訓として残した。「もっと強力な武器を！ もっと大衆的に！」

二つ、我々のこのような、十・八実力闘争は、真の国際主義を戦闘的學生運動にもたらした。「佐藤首相の訪問はベトナム人民の中に日本政府の政策に対する深い憤りと疑念を巻き起すだけである。これこそ日本で佐藤首相のベトナム訪問に抗議する大規模な集會やデモが爆發的に起った理由だとわれわれは考える。われわれは佐藤訪問に反対する日本人民の英雄的行為をたたえ……」(南ベトナム民族解放戦線カイロ駐在首席を代表し、クワン・チャレ氏) 我々

は、唯一我々の実力闘争によって、我々の国際的責務を果たすことができたと考えている。この声明やサイゴン大学学生連合の声明の明らかにする様に、日本の支配者階級がベトナムを含めて、東南アジア全体の支配者へと成長しようとしている事を、我々は確認しているし、我々の実力闘争は、この確認を東南アジア人民共通のものとした。十・二一闘争は、十・八羽田実力闘争によって作り出された、最も具体的な国際主義である。「佐藤サイゴン入り阻止のためサイゴン—東京の連帯共同闘争」という国際闘争の観点を徹頭徹尾完成したものでなければならぬ。「日本プロレタリアートと東南アジア人民による共同の実力闘争による日本帝国主義の植民地政策粉砕」こそ、今日の闘いが切り開いた唯一の国際主義である。

三つ、我々の実力闘争によって、日本帝国主義の国際的威信を地に叩きつけた。数千の機動隊によっても、労働者学生の大規模な阻止闘争を完全に鎮圧する事ができずベトナム侵略戦争遂行への最大の協力者と日本ブルジョアジーを考えてきた米帝国支配者階級に動揺と不信を引き起こしたのを始め。

めとして、日本支配者階級との連合によって、国内政治、経済支配体制の安定を目ざしていた東南アジア反動支配階級内部にも重大な衝撃を与えた。「アジアの最大の繁栄と安定の日」日本の幻想は打ち破られたのだ。我々の闘いに融発されて、各国人民の闘いの激化は不可避であるし、日本帝国主義の国際的威信は失墜した。

政治的支配地域である東南アジア諸国への日本帝国主義の植民地侵略は、積極的に東南アジアの反動的支配階級（民族ブルジョアジーや地主階級）との政治的結び付きを強化する事によって、政治的支配圏を構築する方向へ動いており、又アメリカ帝国主義との政治的取り引き（日米の政策協定）を重要なものとしている。

十・八闘争は、日本労働者人民のプロレタリアインタナショナルナリズムを一層ならざりし、解放戦争を闘うベトナム人民との連帯を明らかにした。

佐藤の南ベトナム訪問に示される事態は日本帝国主義が政治的にベトナム問題に介入する程に、国際的政治力を強化している事を示している。アメリカ帝国主義以外の帝国主義支配者階級が、介入に二の足をふんでいる「ベトナム問題」へ介入する事は、日本ブルジョアジーの力の強さと、日本ブルジョアジーの東南アジア侵略への不退転の決意を示している。又、それだけ、日本のプロレタリアート人民への抑圧も激化している事も含んでいる。

日韓条約以来激化して来た日本帝国主義の東南アジア侵略は、六月佐藤の韓国訪問以来、その政治的性格を一層明瞭にしてきた。帝国主義列強による植民地、従属国の分割競争の激化に象徴される、戦後世界体制の崩壊期に日本帝国主義は、独占体の手による日本資本主義の再編成（金融独占体の独裁体制の確立へ）と徹底した労働者人民への搾取の強化（合理化、大衆収奪）をもって、東南アジア市場分割政策を進めてきている。アメリカ帝国主義の独占的市場

日本労働者、人民の圧倒的な佐藤のベトナム訪問に反対する憤激こそは、日本帝国主義の侵略の激化、ベトナム侵略戦争への介入、生活の困難化等の危機感によってもたらされたものである。この大衆的憤激こそ、羽田の実力闘争を支えたものであり、

日本帝国主義の国内的、国際的確立のもたらした人民への諸攻勢への不満、不安、憤激が、我々の実力闘争に集中的に示される時代になったことを示している。日本帝国主義の東南アジア侵略—日本帝国主義確立へのブルジョアジーの不退転の反動攻撃とそれに対する労働者人民の不満との激突が、十・八闘争を契機に表面化したことを確認しておく必要がある。

闘わなくなってきた中で、全学連、反戦が単独で状況を開き闘いを展開した事を高く評価しなければならぬ。日本帝国主義の確立への諸攻勢、諸政策は、広範な労働者人民の中に、不満、憤激を強めている事。既成指導部は親帝国主義社民としての姿を公然化させた事。全学連の闘いは、この中で日本労働者階級の進むべき方向をはっきりと示し、旗手としての任務を充分に果たした。

友の血を浴びて侵略を進める佐藤を絶対にサイゴン入りさせてはならない。十・八闘争が公然化させた日本労働者人民の佐藤侵略政府への憤激を、さらに突き進める形で十・二一闘争は闘われなければならぬ。一般的にベトナム戦争に反対したり、国際連帯を叫んだりしても、一切無意味であり、国家権力の強力な弾圧の前には、一蹴されてしまうものである事を、十・八実力闘争は明確にした。解放戦争を支持し、それを戦術にまで貫徹する事を問われている。

又、この激突は、新たな闘争部隊の抬頭を示した。羽田の内・外で佐藤の訪越を阻止するために闘った全学連、反戦青年委員会、を中心として結果した労働者学生部隊は、春の一連の砂川基地拡張阻止闘争の中から生みだされ、今日の日本階級闘争の危険を、自らの身をもって突破していく戦闘部隊であった。十・八羽田闘争は、その事を日本労働者階級全体に鋭く突き付けた。

(三)十・二一佐藤サイゴン入り抗議して首都を埋め尽くす大抗議闘争を獲ち取るう／＼全部・全国の先進的学友諸君！  
我々の死力を尽した闘いも、十月八日の佐藤の羽田出発を許してしまった。だが我々は、我々の闘いによって我々の友人をはっきりとさせる事ができた。サイゴンの学友たちは、佐藤のサイゴン入りを阻止する闘いをくり拡げること宣言している。今や、我々の任務は、はっきりとしている。このサイゴンの学友と連帯して東京における徹底した抗議闘争を展開し、佐藤を召還するまで闘い抜くことである。ベトナム人民から憤りと疑惑をもたれている佐藤を学

十・八闘争が学友たちに鋭く突き付けた「ベトナム人民を始めとする東南アジア人民への抑圧者になるのか、それともサイゴンの学友と連帯するのか」という問題を、さらに一層明瞭に全国の労働者、人民に突き付ける硬い闘いを展開しよう！  
十一・一二佐藤訪米阻止闘争への戦列を、十・八闘争の成果に立って打ち固めよう！

国主義の侵略政策の激化に対して、何んら

政治的支配地域である東南アジア諸国への日本帝国主義の植民地侵略は、積極的に東南アジアの反動的支配階級（民族ブルジョアジーや地主階級）との政治的結び付きを強化する事によって、政治的支配圏を構築する方向へ動いており、又アメリカ帝国主義との政治的取り引き（日米の政策協定）を重要なものとしている。

佐藤の南ベトナム訪問に示される事態は日本帝国主義が政治的にベトナム問題に介入する程に、国際的政治力を強化している事を示している。アメリカ帝国主義以外の帝国主義支配者階級が、介入に二の足をふんでいる「ベトナム問題」へ介入する事は、日本ブルジョアジーの力の強さと、日本ブルジョアジーの東南アジア侵略への不退転の決意を示している。又、それだけ、日本のプロレタリアート人民への抑圧も激化している事も含んでいる。

南ベトナム解放戦争と解放戦線新政治綱領

南ベトナム解放民族戦線は、八月、某解放地区で臨時大会を開催し、新政治綱領を採択した。この新政治綱領は、アメリカ帝国主義を一番追いつめる闘いを展開して、ベトナム南部人民を一番広汎に解放戦線の下に結束させて闘争するた

に、またベトナム南部人民の革命的闘争の國際的意義を明らかにしたい。ところで、新政治綱領の意義を明らかにするためには、南ベトナム解放戦争の現局面を明らかにしなければならぬ。

(1) ベトナム人民は、アメリカ帝国主義の企てた「第二期乾期攻勢」「農村革命開発計画」を粉砕して前進している。

政治綱領は、南ベトナム人民がアメリカ帝国主義とあらゆる政權に対する闘いに於いて、確実な進出を勝ち取ったことの確固とした証明であり、また、解放戦線の指導と闘いの正しさのあかしであり、アメリカ帝国主義を追い落とす闘いを飛躍的に発展させる強力な武器である。我々は、解放戦線の闘いを断固として支持するとともに、新政治綱領に賞賛の辞を送るものである。ここでは、新政治綱領の革命的意義を明らかに

革命開発計画」を粉砕して前進している。昨年暮から今年春の乾期を利用して「ベトナム」の「主力軍のセン威」をもくろんだ大攻勢は全くの失敗に終わった。この間に、アメリカ軍はメコン・デルタ進撃作戦、北部「国境」地帯平定作戦、中部山岳地帯の解放軍の撃破などを、一層の軍隊派遣と物資の投入、機動力の駆使をもって遂行しようとしたが一切実現しはしなかった。何故か？ 解放軍がそれまでの成果にもとづき、

米軍への積極的攻撃をしかけ、米軍を基地に釘づけにし、大打撃を与えたからである。特に非武装地帯南部付近で、ベトナム人民軍が、米軍基地を攻撃し、基地としての機能を全く停止させてしまふほどの闘いを展開したからである。米軍基地は、もはや復讐の拠点ではなくなり、静止する攻撃目標となつてしまつてゐる。非武装地帯南のコン・チエン、ジョリン・ドンハの各基地は、四六時中、解放軍の十字砲火を浴び、米兵の死傷、装備の損害は高まる一方である。ナンやサイゴン周辺の米軍基地も攻撃を受け、ミサイルやジェット機、弾薬庫、倉庫などが破壊されている。アメリカ兵にとつて、南ベトナムで安全な地帯どこをさがすよりも見あたらない。

し、都市を解放する闘いをすすめている。クアン省の省都タムキの警察、刑務所、省庁などを攻撃、「ベトナム容疑者」の解放をすすめる作戦が、他の都市に対してもおこなわれている。アメリカ帝国主義とカイライ政權は、解放戦線と解放軍によって全く包囲され、孤立させられている。植民地主義者のかろうじて支配しているのは都市、港湾、道路の一部、軍事基地であり、それすらも日々狭められている。

(2) 彼らの拠点とする都市の中からも、反米・反政府の闘いは起つてゐる。

9月3日に行なわれた「大統領選挙」の不正性に反対して、事実上の軍政に反対してアメリカの干渉に反対して、野党、学生、仏教徒は立ち上がった。9月9日、サイゴン大学学生連合は、不正選挙に抗議し、選挙やり直しを要求する集会を開いた。同じ日、ユエの学生三〇〇〇人は不正選挙糾弾の街頭デモ行進をおこなった。かくして都市住民の闘いの幕は切つて落された。野党も、足並みはみだれながらも、チャー・キ政權に反対する態度を示した。仏教徒も闘

いに決起した。軍事政權が、仏教徒を分断し、急進派を凋落させようと「仏教徒憲章」をきめたことが、かえつて仏教徒の自覚と結束を促した。仏教徒、学生は、軍事政權、官憲のデモ禁止、集会禁止、逮捕、徴兵などという苛酷を弾圧にもめげず、連日の反政府、反米の闘いをおしすすめている。都市住民が、アメリカ帝国主義の干渉と支配に気づき、反対しはじめたことは大いに注目する必要がある。あまりにも露骨な干渉と、アメリカが主体となつた戦争の遂行は一体誰が戦争の張本人であるか、事実をもつて都市住民に示したのである。

- 都市住民の反米闘争は、九月二十四日のサイゴン学生デモに見ることが出来る。デモに先立つ集会で次のような決議を行つた。  
①大統領、上院選挙の有効性の否認  
②十月二二日下院選挙ボイコット  
③アメリカのベトナム主權侵害に反対  
④北爆停止、戦争終結、当事者内の平和交渉要求

そして、これら四項目の決議とともに、アメリカが内政干渉を続けるならば、侵略者と見なすと警告するジョンソン大統領あての公開状を採択した。

解放戦線の闘いは、このような都市住民の自覚を促しているのである。解放戦線と同じように、都市住民の闘いも、いくら弾圧の嵐が激しかろうとも、やめさせることが出来るものではない。

(3) 解放戦線と都市住民の両面からの闘いの進展にはさまれたアメリカ帝国主義は、撤退以外の道としては、悪あがきの道をとるしかない。増兵も、他國の増援も思うにまかせないアメリカ帝国主義者にとって、物量に依つた大量増援を今一層の

残忍さをもつておしすすめることが、救いの道であるかのように見える。非武装地帯南での攻撃に対し、非武装地帯進出やB52による猛爆で対応しているが、それはただただめくらめっぽうに戦争をやっていることである。孤立した彼らには、ベトナム人民は全て敵としか見えない。そして、全てのベトナム人民に、アメリカ帝国主義の本性を自ら伝えてしまふのである。ナバーム弾、ボール爆弾、毒薬、毒ガスによつて、ベトナム人民は、かたわにされ、かつ殺戮されている。年令、性別を問はず、あらゆるベトナム人民に向つて砲弾が飛ばされ、

戦車が向けられ、火砲銃が向きつけられて  
いる。一切の残酷な方法を使ってベトナム  
人民は殺され、その肉は切りきざまれて  
いる。

「北からの侵略」という名目を使ってい  
る彼らは、南で苦境に陥るほどにベトナム  
民主共和国に対する攻撃を激化させるもの  
だ。

九月に入ってから連続しているハイフ  
ン市、ハイフォン港、カムファ港に対する  
爆撃は一層激化をましている。十月に入  
ってからも、爆撃制限は次々と解除され爆  
撃は拡大している。この爆撃はもはや「軍  
需目標」に対する爆撃といったものではな  
く、軍事施設、工場、住居を問わずあらゆる  
ところを爆撃するという、めくら爆撃、  
じゅうたん爆撃である。人口密集地区の猛  
爆、トンキン・デルタへの爆撃は、破壊、  
火災、洪水、殺戮以外の何ものでもない。  
日本帝国主義が中国侵略で行った、焼きつ  
くし、殺しつくし、破壊しつくす「三矢作  
戦」は今、アメリカ帝国主義によって、あ  
らたな形で復活している。

ハイフォン港封鎖が北ベトナムに決定的  
打撃を与える(?)と言われている。アメ

リカ帝国主義はそう信じ、封鎖をすすめて  
いる。第一に陸上からの封鎖、ハイフォン  
港へ通じる鉄道、道路の破壊、ハイフォン  
港付近の倉庫、工場の爆破、第二に海から  
の封鎖として、造船修理工場の爆撃(十月  
十二日から)、造船所爆撃(十四日から)。  
それに続くことは、橋樑爆撃、船舶沈没、  
機雷設置以外にはありえないし、それはご  
く近いうちに遂行されることが予想される。

こういふハイフォン港封鎖処置とともに  
とられているのが、中国国境に近い地帯の  
爆撃制限解除である。アメリカ国内に高ま  
る、ベトナム政策批判に対して「ハノイは  
われわれが北爆を停止すれば何をするのか  
いまだかつて明らかにしていない」(ラス  
ク國務長官、十月十二日記者会見)と、強  
圧的に批判をおさえ、「中国は世界革命を  
主張し、それを実践しており、その戦闘姿  
勢は変わっていない」(意義なし)、「ア  
ジアの共産主義がインドシナからインドネ  
シアに延びることは好ましくない。アジア  
諸国は常に北京のおそろしい脅威のもとに  
おかれることになる」(同前)と中国の  
「脅威」を強調し、ベトナム侵略戦争を拡  
大し、中国への挑発をすすめるのである。

だが、このアメリカ帝国主義の侵略の扱  
大も、ベトナム人民からの一層の反撃をく  
うだけである。帝国主義者が傷口をおお  
く、残虐さを発揮すればするほど、彼ら  
の体内からの出血を多量にするだけである。  
北ベトナムでは米侵略機を二千数百機も打  
ち落している。米軍発表(十月五日)でさ  
えも、米軍死者は一〇万人を突破してお  
り、その半数以上が今年に入ってからのも  
失である。特に非武装地帯南で大きな損害  
をこうむっている。

ベトナム解放戦線の勝利とアメリカ帝国  
主義の敗北は明らかである。ベトナム人民  
は勝利の確信を持って、苦難の局面を克服  
し、前進している(我々はベトナム解放闘  
争の正当性と勝利の浪興を後述するであ  
らう)。ベトナム人民の闘いは、幾多のア  
メリカ帝国主義の攻撃を撃破し、敵々の「ベ  
トナム人民苦境論」「ベトナム人民危機論」  
に破産を宣告した。我々のベトナム解放闘  
争支援、解放戦線支援の方針の正しさを、  
ベトナム人民はその闘いで証明した。ベ  
トナム解放闘争の勝利的前進は、多くの反  
帝主義的分子に、「ベトナム人民との連帯」  
を口にするのを余儀なくさせている。だ

が、それら諸君の「前科」を知っている我  
々は、それを単純に歓迎することはできな  
い。ベトナム人民の革命闘争と連帯するこ  
と、新政治綱領を支持することをめきにし  
て、ベトナム人民との連帯を云々すること  
はできない。

(4) 日本帝国主義は、アメリカ帝国主義  
の侵略戦争に一層強力に加担し、ベ  
トナム人民との敵対をますます深めている。  
佐藤首相の南ベトナム訪問は、侵略戦争へ  
の一層大胆な加担を示すものに他ならない。

佐藤訪ベトナムに反対する我々青年学生の断固  
たる実行阻止闘争は支配階級のベトナム政  
策に対する痛烈な打撃であり、ベトナム人  
民との戦闘的連帯を勝ちとったものである  
(闘争の意義については他論文が述べてい  
る)。我々は、羽田に於ける闘いをもって、  
日本帝国主義が、アジア革命人民の共同の  
敵であることを示した。我々の闘いをサイ  
ゴン大学学友、解放戦線、中国人民は熱烈  
に支持し、ベトナム人民は我々の闘いに呼  
応し、佐藤のサイゴン入り反対の闘いを組  
まんとしている。ベトナム人民はアメリカ  
帝国主義の強力な同盟者、日本帝国主義と

の闘いを開始したのである。

十月二日、サイゴン南東三十Kのロンタ  
ウ川を航行中の日本貨物船が、解放戦線に  
砲撃されたことは決して偶然ではない。日  
本の貨物船が軍用物資を運搬し、ベトナム  
人民殺戮に手を貸していること、日本帝国  
主義者がベトナム人民に敵対していること  
をベトナム人民は知っているのだ。我々は、  
ベトナム人民の、日本の侵略加担者に対す  
る攻撃を歓迎し、ベトナム人民と連帯して  
日本帝国主義と闘うものである。

(5) 解放戦線新綱領は、ベトナム南部人  
民の、解放戦線への一層の結果と結  
束をはかり、アメリカ帝国主義を撃破する  
ために臨時大会で採択されたものである。

南ベトナム解放民族戦線は、これまで  
の綱領を発展させるという精神のもとに、  
偉大な民族団結のプロックをさらに広げ、  
全人民が突撃しアメリカの侵略者とたた  
かってこれを打ち破り、独立、民主、平  
和、中立、繁栄の南ベトナムを建設する  
決意をかためよう励まし、促すため、  
この政治綱領を作成した。  
この綱領の意義は第一に、解放戦線が南

ベトナム人民の唯一の、真の代表となった  
こと、第二に、アメリカ帝国主義を追放し、  
かいらい政權打倒を徹底的にすすめること  
を再確認していること、第三に、「和平策  
動」を断乎拒否していること、第四に、茶  
番の大統領選挙、国会議員選挙を認めない  
こと、第五に、北部人民との団結をすすめ  
ること、第六に、世界人民の革命闘争の一  
環であること、第七に、人民戦争によって  
勝利をかちとることを明らかにした点にあ  
る。ベトナム人民の解放闘争は、この新政  
治綱領の下に一層の前進を勝ちとるに違  
ない。その意義について、次に述べ、ベ  
トナム人民の革命闘争の正当性と意義につ  
いて明らかにし、数々の反帝主義的分子の  
反階級の見解を粉砕していくであろう。

(続く)

社学同沖繩対策委員会

同志諸君、我々は沖繩の解放は、日本プロレタリア革命の戦略、アジア人民の解放の戦略に基かなければならないこと、日本革命戦略のなかの独自の課題としてはっきり位置づけられた闘いであり、独自の日本人に課せられた闘いであることをはっきり確認して来た。

「日本帝國主義の沖繩政策」

六五年、佐藤の沖繩訪問、森総務長官による教育権分離返還論、六七年六月下田駐米大使（当時外務次官）による核基地付返還日米貿易経済合同委員会、三木・ラスタ、三木・ジョンソン駐日大使間談話における沖繩・小笠原問題の討議、このように頻りに日米間の交渉の背景を、即ち、日本帝國主義の沖繩政策の本質を暴露、宣伝すること、そのことから我々の沖繩闘争の第一歩

は始められなければならない。帝國主義的確立に向いつつある日本帝國主義にとって「沖繩はどのような位置を占めるのか。日韓条約を契機に本格的海外侵略（政治的、経済的、軍事的な準備）を開始した日帝は、今年六月の訪韓に始まる一連の東南アジアへの首相訪問により、その第二期に突入した。簡潔にいえば、第一に韓台植民地圏の構築、第二に東南アジアを日本の農業基地、原料資源の供給地、資本の投下地へと位置づけることを容易ならしめる政治的発言力の強化、各国反動派との結束強化第三に、極東、否、東南アジアにおける日米兩國帝國主義國間の軍事的再編成、その中心課題としての沖繩問題。かように沖繩問題は、一連の東南アジア政策の中に、即ち日帝確立へのスケージュールの中に、明確に位置づけられているのである。

アジアにおける革命、民族解放闘争に対する積極的な敵対の政策の確立であり、沖繩の基地を極東の緊張が続く限り、「基地自由使用」、「日米共同管理」、いずれの形態をとるとしても今以上に拡大、強化する事の確立であり、「返還のメド」とは、米極東戦路のキーストン「沖繩」をめぐる交渉でアジアの他の地域の防衛分担（軍事的勢力範囲の確定）をどの程度日帝が獲得するのか、及びその時期に関する双方の一致点をさぐることである。

米韓、米華、米比、アンザス各安全保障条約に於いて共同防衛地域となつてゐる沖繩、その沖繩返還交渉を前に、一連の布石はうたれている。即ち、佐藤訪韓・訪台時に行われた日米韓台首相会談、及び将経國台灣国防相の来日等である。

日帝は今や積極的に、アジアの防衛分担のりだしてゐる。これが沖繩政策の本質であり、第一点である。

第二点として、沖繩に対する民族的一体感を深めるといふ名目の下に、排外主義的侵略是認の世論を形成していく大衆操作の一環としての沖繩政策である。「沖繩返還問題の解決という「国民的願望」との関連

の下に、安保、防衛の問題を提起すれば、とかく防衛問題から目をそむけがちな国内の空気を交えていくうえで、またとない機会となる」といふ見方が強く、実際に日韓の時に充足した自民党国民運動本部ではそのような安保の逆宣伝が準備されている。又、沖繩において「日の丸」を掲揚することによって心情的に本土との一体感を煽り沖繩におけるナショナリズムを、本土に波及させようとしてゐること。万国博覧会の準備の重労働に沖繩出身者を使うなど、着々とナショナリズムを根付かせようとし、海外侵略の精神的地盤を構築しつつある。

第三に、下田発言、いわゆる核基地付き返還（核基地の存続を認めれば、施政権返還はスムーズにい）に見られるように沖繩に存在する核基地（ノースB基地、ナイキハークリーズ基地）を認めたまま、日本返還が実現すれば、平和憲法に違反した既成事実を作り、日本本土の核武装への第一歩をなすものである。既に、原子力潜水艦の恒常的日本寄港、エンタープライズ横須賀寄港を積み重ねることに、日本人民の核アレルギーをなくする政策は着々と進行している。核の引き金に日米共同で手

をかける事、更に独自の核を開発すること、このことこそ決定的な発言力の強化、深まりゆく米帝との抗争に備える強力な後立てなのである。又、韓・台・比・兼等の共同防衛地域になつてゐる沖繩の施政権を握ることにより、その地域への自衛隊の派遣、國連軍という名のあるいは、もっと露骨にアジアの防衛のための自衛隊海外派遣が沖繩返還による他地域の防衛義務遂行の形で軍事侵略の阻止めがはずされようとしてゐる。現に、昨午暮の海上自衛隊「あまつかせ」の合同演習等、自衛隊の来島、演習が相ついでゐる。沖繩の現実を既成事実とした本土の核武装化、軍事力の強化、自衛隊の國際帝國主義軍隊への脱皮が行われようとしてゐる。これが第三点である。

第四点として、沖繩反動派との政治的結合強化が即ち自民党と沖繩民主党との結合が強化され、沖繩と党を通じて沖繩の治安立法を強化している点、即ち本土並みの教育といふをから、本土並みの教育労働者にたいする弾圧法、教公二法（教育委員会の選挙制から任命制へ、教師の政治的活動の大巾規制）の強行採決（2・24抗議闘争により大衆的に廃案協定が成立したにもか



わらず11月立法院議事において継続審議の陰謀が成功している)や言論統制の強化と大衆収奪を強う改選法の与党単独採決がある。更に、民衆のデモに対し沖繩民主党政事長桑江某は、自民党大会において本土の警察力の援助を要請している。

更に、注目すべきは首相の諮問機関、沖繩問題等懇談会に対応する形で杉岡琉球政府主席の諮問機関として復帰問題研究会(2月初旬結成座長平良辰雄元群馬知事(民党)が結成され、沖繩の全島の世論の統一をはかるといふ名の下に、祖国復帰協会長喜屋武某及び教職員会の某幹部が参加している事(但し個人的資格だと弁解してはいるが)に見られるように従来の「革新運動」に亀裂が生じている事。亀裂どころか復帰運動のヘゲモニーが政府自民党沖繩民主党ラインに移行しつつある事態である本土に於ける労働者階級に対する弾圧と、「民主勢力」の一部に対する買収、懐柔が沖繩において並行的にむしろより露骨に行われている事である。

以上大まかに見てきたように日本帝国主義の沖繩政策は日帝確立のスケジュールの中に明確に位置している。日本帝国主義は

沖繩人民を抑圧し、吹き、日本人民を徹底的に弾圧し、侵略戦争へ駆りたて、アジアの反動共産金をバラまき、アジアの人民に敵対し、米帝の軍事力を利用して自己の勢力圏を確保、拡大し、陰險な相棒から危険な相棒へと成長しつつある。

この日帝の巧妙且つ露骨な反人民的政策を徹底的に宣伝、暴露し且つ粉砕する隊列を長期にわたり構築していく事、これが我々の当面の任務である。

#### △沖繩の日本人民の状態と基地

沖繩九六万の住民の生活を二重、三重に圧迫しているのは基地の存在そのものである。この点からして、沖繩人民にとって核基地と通常基地の区別が実際的には無意味である。核基地が撤去されねばならないと同様に通常基地も撤去されねばならない。「本土並み基地」云々は悪しき現実主義である。沖繩基地は核基地として重要なのではなく、寧ろ、ベトナムのような局地戦争に対し、短期間に物資、兵力の輸送を可能ならしめ

る基地として、対ゲリラ基地として重要なのである。

ここに、祖国復帰運動は日帝の政策を粉砕するものとして存在しているのかという疑問が存する。そのようなものへと発展させる事が必要なのである。現在、祖国復帰運動は全面的に支持し、拡大強化しなればならない。問題は、本土において単に祖国復帰カンパニアに終るのか、それとも沖繩返還の背景を訴え「沖繩返還政策」を粉砕していくのかにある。本土において沖繩返還政策を徹底的に粉砕していくなかで沖繩の祖国復帰運動は、生き生きとし、沖繩解放を目指す強力な統一戦線へと発展していく契機が与えられるであろう。軍労働者、農民、プロレタリアートのヘゲモニーの下に結束する統一戦線、東南アジアの民族解放戦線と堅く結合し、日本の革命的左派を結合する強力な統一戦線、そのようなものへの再組織は、本土における徹底した反日帝、日帝の侵略外交粉砕の中でこそ可能になるのだ。沖繩における反米闘争を武力闘争として準備し、同時に「日帝」の底意を暴露していく事、即ち本土に於ける反日帝闘争を評価すること、その事が現在、要請

されている。沖繩における祖国復帰運動をまったく評価しないこと、逆に本土における沖繩闘争を祖国復帰運動カンパニア闘争にとどめ、本土における独自の反日帝沖繩闘争を組織しないこと、いづれも誤った態度である。沖繩の祖国復帰運動方針、「反米闘争」大いに結構、ヤンキーゴーホームも大いに結構。沖繩の反米祖国復帰運動を勝利のうちに前進させるか、悲劇的な民族排外主義の軍勢に粉砕されるのか、その重大な要素は、本土における徹底した反日帝闘争により、日帝の海外侵略政策を粉砕し得ることができるか否かにある。もちろん、本土における反米闘争を放棄するのではなく、積極的に反米帝の武力闘争をアメリカ大使館へ、米軍基地へ、米軍事行動阻止の闘いを組織しなければならぬ。六五年佐藤の訪沖に対し沖繩人民が行った抗議闘争に呼応する日本本土における佐藤外交粉砕の闘いが組織されなかつた思想的弱点は克服されなければならぬ。沖繩人民は日本政府の自らに対する敵対性があるいは不信感を戦後二十二年間日本の沖繩政策の中で肌で感じていた。しかも、尚且つ祖国復帰の旗を掲げ勇敢に前進しているのである。

我々はこの事を理解しなければならぬ。日本における欺瞞的な沖繩返還政策を徹底的に粉砕する事により沖繩人民の闘いは疑いもなく勇気づけられ、前進する。沖繩における日本人民、本土における日本人民は互いに強固な連帯を前提として、冷静に立場の違いを認めなければならぬ。二つを結ぶ一本の赤い糸は、東南アジアにおける人民と固く連帯する事、俗に「深い」は、ベトナム人民の正義の戦争が勝利を勝ちとるためには、あらゆる犠牲をしのんで何でもするという態度である。マルクス、レーニン主義、毛沢東思想に基づく活動スタイルを我々は国際的観点に立ち活学活用し自らのものとする。ベトナム人民が、ベトナムの地で闘っているように、沖繩人民は沖繩の地で、南朝鮮の人民は南朝鮮の地で帝国主義者とその手先に対する闘争を堅持しよう。我々は断固として帝国主義確立の局面に向う日帝のその一つ一つの政策を粉砕すべく闘うと同時に日本におけるアメリカ帝国主義のベトナム侵略戦争反対の武力闘争を長期に亘り組織し、闘うだろう。

#### サイゴン大学学生連盟声明

サイゴン大学学生連盟はベトナムの独立と平和のために、佐藤首相の南ベトナム訪問に反対して戦っている日本の学生に対して心から賛同の意を表す。

#### 南ベトナム解放民族戦線声明

佐藤首相が日本国民の反対を無視してサイゴンにやってくるという事実こそ、佐藤首相がジョンソン政府の政策に追随していることの明白な証拠である。われわれは佐藤訪問に反対する日本国民の英雄的行為をたたえ、かつこれに感謝する。デモのさい死亡した学生の家族には心からおみやみをお願いしたい。

#### 中国共産党声明

勇敢な日本の学生は八日、東京の羽田飛行場で数年来なかつた激烈な抗米愛國闘争を繰広げ、日本の親米売國の首相、佐藤栄作の南ベトナム訪問に断固として反対した。二百人あまりの学生が負傷し、山崎博昭という名前の青年学生は壮烈な死をとげた。学生たちは残酷な弾圧の前に少しも恐れず、断固として反撃し、多くの警官を負傷させた。かれらはまた警官の手中から装甲車を奪い、焼いた。

はじめにV本稿は「本誌前号」の後篇であるが、本稿中絶の間に、偉大な歴史的な出来事があったことをここに感懐に記しておく。又この闘争のなかで革命的學生、京大生山崎君が、革命家の模範としてプロレタリア革命のために輝かしい戦死を遂げたことを深い哀悼の意をもって記録したい。

一九六七年十月八日の羽田における闘い「悲劇「羽田事件」と称される」は、ブルジョア平和の夢をむさぼっていた日本ブルジョアジーを醒まし、そして日共をも動員した反革命運動に駆りたて、組織的な弾圧を開始した。

佐藤栄作の東南アジア訪問は怒涛の如く進むアジア革命人民の闘いに恐怖するアジア反動支配階級——買弁ブルジョアと地主——を「救済」し、米帝と日帝が革命をせよと止め、東南アジア共同分割支配を押し進めんとする所にある。

真のプロレタリア国際主義とプロレタリア革命主義に基づいた闘いとはかかる闘いであった。マルクスレーニン主義と毛沢東思想の旗を堅持する革命的學生と労働者を中心とするこの闘いは、必ず、日本プロレタリア革命闘争の輝かしい烽火となるであろう。多くの教訓をこの闘いから引き出し

て、革命闘争は更に一歩前進するであろう。ニマルクスレーニン主義と毛沢東思想はプロレタリア革命戦略の基礎である

1. 毛沢東思想とは何か

「新民主主義革命の前進は資本主義ではなく社会主義である。毛沢東同志の新民主主義革命にかんする理論は、マルクス・レーニン主義の革命段階論でもあり、マルクス・レーニン主義の連統革命論でもある」

(林彪)

「毛沢東同志は、中国および世界の社会主義革命とプロレタリアート独裁の経験、教訓をたえず研究し、総括して、社会主義社会の矛盾、階級及び階級闘争に関する学説を提起し、一連の重要な新しい問題を解決して、プロレタリアート独裁に関するマルクス・レーニン主義の理論を新たな高峯に発展させた」(「プロレタリアート独裁とプロレタリア文化大革命」)

「総会は、毛沢東同志がこの四年間に社会主義革命と社会主義建設について提起した一連の問題は、わが国における社会主義の

事業の発展と勝利を大いに速めると共に、わが国のプロレタリアート独裁と社会主義制度を強化し、修正主義が党と国家の指導部をのつとるのを防ぎ、資本主義が復活するのを防ぎ、わが国がプロレタリア国際主義を堅持して世界各国人民の革命闘争を積極的に支持していくのを保証し、わが国が将来次第に共産主義に移行していくのを保証するうえに、極めて大きな意義をもっていと考える」(中国共産党第八期中央委第十一中総)

「毛沢東同志は、八期十中総会で、当時の情勢を正しく分析し、社会主義社会における矛盾、階級、階級闘争についての理論をかさねて強調した。……階級闘争、生産闘争、科学実験の三大革命をくりひろげ、偉大な勝利を収めてきた」(同前)

「現在の文化大革命は最初のものにすぎず、これからも必ずたびたび行なわれなければならない」(『偉大な歴史的文献』)

「毛主席は我々は次のように教えている。プロレタリアート独裁のもとでは革命の主要な対象はプロレタリアート独裁の機構内にまぎれこんだブルジョアジーの代表者であり、資本主義の道を歩む党内の一握りの

突進派である。」(同前)

「階級闘争は、決して終わっているのではない」「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」

毛沢東思想とは世界プロレタリア革命理論思想の中で、何であるか？ 中国における、その二十世紀の階級闘争の中で、何であるか？ 反封建国民革命、土地革命、抗日民族民主革命、新民主主義革命、プロレタリア文化大革命と激烈な中国における階級闘争の中で、毛沢東思想が、常にその指導思想として存在し、かつ発展してきた事は全く明らかである。かかる激しい闘いの中で、階級的矛盾を明らかにし、敵を明らかにし、味方を拡大し整頓し、敵闘を指導してきたものが毛沢東思想である。

毛沢東思想とは何か？  
それは、何よりも「不断革命」の思想である。人類の理想である全世界共産主義社会を目指した永続的な革命闘争の理論であると共に、恒常的に社会の全分野を革命しようとする理論であり、階級敵を打倒消滅するだけでなく、革命の隊列、革命人民をも革命化する革命理論である。

例えば、ここに反動的な反面教師が存在する。毛沢東思想は変わった」と泣き言を並べている「日本共産党」と称する修正主義集団がそれである。「今日の毛沢東路線は中国革命の中で指導的役割を果たした毛沢東の過去の主張や理論とは、基本的に異質なものである」(『今日の毛沢東路線と国際共産主義運動』、『赤旗』十月十日付論文)と。ブルジョア的なオシャベリ屋や、階級闘争の発展、人民の前進について歩かない「党官僚」だけがかかる悲鳴をあげるのである。

「今日の毛沢東路線」が、例えば「抗日戦争時代」の路線と異なる事を「非難」するとは何と驚きいっただ神経である。自己の日和見主義の本質を露すため文献学的引用で事態をゴマかしてきた連中にとって、毛沢東思想が全く手に負えぬものとなったことは明らかである。

同志諸君！  
階級闘争の国際的又は国内的な局面の変化に応じて、プロレタリア革命の路線(我々の旧来の用語では「革命戦略」)が変化する事は全く明らかである。ただ問題は、局面を正しく把握しているかどうか、

「不断革命の観点、人民、階級闘争、革命の中で、次の路線を見出す観点、これこそ毛沢東思想の最もすぐれた本質なのである。2. 毛沢東理論とは何か  
毛沢東のかかる観点は、複雑で巨大な中国革命に正しい方向を与えた。各局面にお

ける革命理論を提起しその実践がそれを証明している。だが観点が現実と遊離するならば、それはもはや一切の革命性を喪失する。革命的観点を、まさに、資本主義、帝国主義批判分析と結びつけ、革命闘争の路線、戦略を明らかにしたものをこそ革命理論である。

我々は未だ終端を迎えていない世界資本主義の中で生きていく。基本的に帝国主義が支配し、金融独占とその各種の手先の支配下の世界に生きていく。「資本主義の最高の段階」たる帝国主義段階に我々は生きているのである。

この帝国主義段階の世界資本主義の特性、本質については、レーニンがその各著作の中で明らかにした。世界資本主義と階級闘争の現実を分析し、プロレタリア革命の道を探し出したレーニンの帝国主義論は、今なお、我々の革命闘争の指針であり、原則である。「生産力と生産関係の矛盾」が一国的な枠の中で思考されていた「古典マルクス主義」に対して、「生産力と生産関係の矛盾」を世界資本主義の中にはっきりと置き、帝国主義段階の分析におき、プロレ

主義者がまだ当面したことのない任務に直面している。諸君は一般共産主義理論及び実践に立脚しながら、ヨーロッパ諸国には存在しない特異な諸条件に適應して、農民が基本的大衆であって、資本に対する闘争ではなく中世の遺物に対する闘争の課題を解決しなければならぬという条件に、この理論と実践を適用することを理解しなければならぬ。これは困難で、特異な任務である。だがこれはやりがいのある任務である」(一九一九年、東方諸民族共産主義組織の第二回全ロシア大会、レーニン)

「おくれた国で、地主にたいし、大土地所有者に対し、封建制のあらゆる現れあるいは遺制に対して行なわれる農民運動を、とくに支持し、農民運動にもっとも革命的な性格をあたえるようにとめ、西欧の共産主義的プロレタリアートと東洋、植民地と一般におくれた国の革命的農民運動とのできるだけ緊密な同盟を実現しなければならぬ。とくに必要なのは『勤労者ソグ、エト』等々をつくることによって、前資本主義的な諸関係が支配している国々にソグ、エト制度の基本原則を適用するためあらゆる努力を傾けることである」(一九二〇

年、民族問題と植民地問題についての「後進国」植民地、従属国の階級闘争が、レーニンは、かくの如く「おくれた国」の闘争について述べている。この問題は、帝国主義列強が、従属国や植民地の収奪をますます拡大し深め、自国内のプロレタリアートの一部を組織的に墮落させ、買収するようになってからというもの、ますますプロレタリア世界革命闘争にとって巨大な問題として登場してくる。

「後進国」植民地、従属国の階級闘争がいかなる路線をもつか、それはいかにしてプロレタリア革命に発展するか、世界革命にいかなる任務をもつか、これらの問題に真正面から応えたのが、まさに毛沢東の理論に他ならない。

毛沢東の理論は、労働者階級に指導された農民の闘争という観点から出発した。そしてそれは、全世界の帝国主義とその手先の買収官僚資本と地主との闘争として世界的規模のプロレタリア革命闘争にしっかりと立っていた。この事が、植民地、従属国、半植民地の階級闘争を世界革命闘争の一翼として前進せしめる根本的要因となつたのである。無論プロレタリアートの農民

タリヤ世界革命の条件と展望を世界階級闘争の中にしつかりと位置づけたのが、レーニンであるからだ。世界資本主義としての帝国主義段階を明らかにし、プロレタリア革命を世界的規模で展望したのである。

二十世紀の世界資本主義は、帝国主義段階のそれである。それは、すでに二つの世界的規模での帝国主義戦争を引き起こした。今や、それは、いくつかの帝国主義国とそれに支配され従属する植民地、半植民地に世界資本主義を色わけしてしまった。植民地に対する帝国主義の支配が深まり、そして再分割が繰り返される中で、植民地又は半植民地のブルジョア化が進展し、帝国主義、金融独占と人民の対決があらわになり、植民地半植民地人民のプロレタリア化と、賃銀労働者の発生を促した。

かかる中で帝国主義国における階級闘争革命闘争と、植民地半植民地における革命闘争、階級闘争との諸関係が、プロレタリア世界革命における役割が問題となつてこざるを得なかつた。このことは、とりもなおさず、プロレタリア世界革命の理論が一層豊富化され緻密にされねばならぬ事を意味した。帝国主義国と半植民地、植民地、

従属国における闘争を一体として、プロレタリア革命闘争へ押し進める理論——この問題は特にレーニン死後、世界のプロレタリアートに課せられた重大な問題であつたのである。逆に言えば「後進国」のプロレタリア革命の道を明らかにしえない「革命論」は帝国主義段階に関する全面的批判としても、プロレタリア世界革命の理論としても、帝国主義段階「その爛熟と展開」に對するものとして完全なものとは言えなかつたのである。

毛沢東理論——それは、マルクス・レーニン主義の帝国主義論を一層緻密かつ豊富にしたものであり、マルクス・レーニン主義のプロレタリア革命論を一層緻密かつ豊富にしたものである。そして、特に「帝国主義論」と「国家と革命」に示されるレーニン主義の立場を所固として毛沢東は擁護してきているのであって、毛沢東理論は、マルクス・レーニン主義であると共に、一層発展したマルクス・レーニン主義であることは明らかである。

1. 植民地、従属国におけるプロレタリア革命

「ここでは、諸君はこれまで全世界の共産

運動への支持や労働同盟に関する理論、帝国闘争の一翼としての民族独立闘争という観点はレーニンもはっきりと示している。だが、「労働者階級に直接指導された農民運動」という路線は全く新しいものであつた。

そして、かかる新たな植民地、半植民地、従属国における階級闘争の具体的形態——それこそ「人民戦争」の理論に他ならないのである。都市のプロレタリアート、学生の大衆闘争と結合しつつ、農民運動に依拠し、農民を武装させ、プロレタリアートに直接指導され、プロレタリア革命をめざし、反帝国主義、反封建、半官僚資本のために闘争する革命軍をつくること、ここにこそ、はじめて、「後進国」の闘争が、世界プロレタリア革命の中にその雄姿をはっきりとあらわす第一歩があつたのである。

しかし、農民による地主の収奪、買収資本収奪、封建制の打破、帝国主義侵略の撃退——これらは、ブルジョア民主主義的な課題に他ならない。ただこれを徹底して行りか否か、常にプロレタリアートの指導の下に社会主義の方向に発展するかどうか、かかる「解放区」勤労者ソグ、エト」がプ

ロレタリア革命へ前進するか否か、それこそ其の疑問であったのである。共産党に直接指導される革命軍、農村を根拠地とする人民戦争、これこそプロレタリア世界革命と「後進国」の闘争を結びつけ、その後の「後進国」の闘争の全発展の根拠であった。

だが、植民地、半植民地、従属国の階級闘争が、全世界のプロレタリア革命闘争と結合したとしても、それだけでは十分とは言えない。「植民地、半植民地、従属国のプロレタリア革命」の路線が明らかになればならない。

プロレタリアートに指導される（支持されるではない）農民運動、農村を出発点とする人民戦争、共産主義者に指導される革命軍、反帝、反封建、反官僚資本を旗印とする大衆闘争、これらの原則の上にこそ、「後進国」プロレタリア革命の戦線が樹立されるのである。

すなわち、いわゆる「段階革命」と称される路線がそれである。プロレタリアートの主導するブルジョア民主主義革命という現実にはロシアでも存在した。「段階革命」論は、又、スターリンによつて、

「帝國主義國」プロレタリア革命、植民地民族革命」というような、觀念論に落ち込んでいた。「二段階革命」の理論が、それであり、今回の日本共産党もこの点では全く変わっていない。

毛沢東理論の中にも「段階革命」は散見される。だが、毛沢東の理論が、スターリンのそれとはことなり、実は「二段階革命」ブルジョア革命、社会主義プロレタリア革命というのとは異なり、プロレタリア革命をめぐり革命発展段階論であることはあきらかである。言葉を変えて言えば、不断革命（永続革命）の観点に立ったプロレタリア革命の組織戦略論があるとも考えられるのである。

毛沢東の革命理論が単なる「二段階革命論」ではない事は、最も明白には、今日展開されている「プロレタリア革命の一層の発展」としてのプロレタリア文化大革命を見てあきらかである。又古くは、「抗日戦争」時代における統一戦線戦術などを見ても、スターリンの「二段階革命」論とは全く異質であったことがわかる。そして、

蒋介石一味の官僚ブルジョアジーと地主階級を一九四九年粉砕するや否や「新民主主義革命への存与を、我々は理解せねばならぬ。それは、プロレタリア革命の軍事問題への完全な回答であり理論である。我々は、プロレタリアート独裁の強化、プロレタリア革命の無限の前進についての学説である。

プロレタリア革命の軍事問題とは、プロレタリアートが革命をめざしその階級的利益を防衛するための全組織問題に関する理論であると共に、その一部である純軍事問題の理論でもある。

毛沢東は、軍事問題において次の点を示した。プロレタリア革命の部隊、人民の軍隊が絶対に必要なこと、この軍隊は激しい階級闘争の中で人民自らの手で作られること、この革命軍は文字通り戦争を行なうと共に生産隊でもあり、宣伝工作隊でもあること、この軍隊は人民に奉仕し、世界革命に奉仕し、かつ革命党に直接指導されることである。この事は最近、林彪によつて、「四つの第一」、「三八作風」などにおいて、無階級の革命軍に転化することによつて、最も鮮明に示された。我々はロシアのプロレタリア革命がブルジョア正規軍の解体による赤軍の建設によつて支えられたことを

「帝國主義國」プロレタリア革命、植民地民族革命」というような、觀念論に落ち込んでいた。「二段階革命」の理論が、それであり、今回の日本共産党もこの点では全く変わっていない。

毛沢東理論の中にも「段階革命」は散見される。だが、毛沢東の理論が、スターリンのそれとはことなり、実は「二段階革命」ブルジョア革命、社会主義プロレタリア革命というのとは異なり、プロレタリア革命をめぐり革命発展段階論であることはあきらかである。言葉を変えて言えば、不断革命（永続革命）の観点に立ったプロレタリア革命の組織戦略論があるとも考えられるのである。

毛沢東の革命理論が単なる「二段階革命論」ではない事は、最も明白には、今日展開されている「プロレタリア革命の一層の発展」としてのプロレタリア文化大革命を見てあきらかである。又古くは、「抗日戦争」時代における統一戦線戦術などを見ても、スターリンの「二段階革命」論とは全く異質であったことがわかる。そして、

蒋介石一味の官僚ブルジョアジーと地主階級を一九四九年粉砕するや否や「新民主主義革命への存与を、我々は理解せねばならぬ。それは、プロレタリア革命の軍事問題への完全な回答であり理論である。我々は、プロレタリアート独裁の強化、プロレタリア革命の無限の前進についての学説である。

プロレタリア革命の軍事問題とは、プロレタリアートが革命をめざしその階級的利益を防衛するための全組織問題に関する理論であると共に、その一部である純軍事問題の理論でもある。

毛沢東は、軍事問題において次の点を示した。プロレタリア革命の部隊、人民の軍隊が絶対に必要なこと、この軍隊は激しい階級闘争の中で人民自らの手で作られること、この革命軍は文字通り戦争を行なうと共に生産隊でもあり、宣伝工作隊でもあること、この軍隊は人民に奉仕し、世界革命に奉仕し、かつ革命党に直接指導されることである。この事は最近、林彪によつて、「四つの第一」、「三八作風」などにおいて、無階級の革命軍に転化することによつて、最も鮮明に示された。我々はロシアのプロレタリア革命がブルジョア正規軍の解体による赤軍の建設によつて支えられたことを

「帝國主義國」プロレタリア革命、植民地民族革命」というような、觀念論に落ち込んでいた。「二段階革命」の理論が、それであり、今回の日本共産党もこの点では全く変わっていない。

毛沢東理論の中にも「段階革命」は散見される。だが、毛沢東の理論が、スターリンのそれとはことなり、実は「二段階革命」ブルジョア革命、社会主義プロレタリア革命というのとは異なり、プロレタリア革命をめぐり革命発展段階論であることはあきらかである。言葉を変えて言えば、不断革命（永続革命）の観点に立ったプロレタリア革命の組織戦略論があるとも考えられるのである。

毛沢東の革命理論が単なる「二段階革命論」ではない事は、最も明白には、今日展開されている「プロレタリア革命の一層の発展」としてのプロレタリア文化大革命を見てあきらかである。又古くは、「抗日戦争」時代における統一戦線戦術などを見ても、スターリンの「二段階革命」論とは全く異質であったことがわかる。そして、

蒋介石一味の官僚ブルジョアジーと地主階級を一九四九年粉砕するや否や「新民主主義革命への存与を、我々は理解せねばならぬ。それは、プロレタリア革命の軍事問題への完全な回答であり理論である。我々は、プロレタリアート独裁の強化、プロレタリア革命の無限の前進についての学説である。

「プロレタリア革命国家を平板な『生産力主義』  
「経済主義」におきかえ、革命的な世界政  
策にも反革命の役割を果たすことを示した  
ことである。又同時に、重大なことは、こ  
の革命のために、全人民を立ち上げさせ、  
全人民を革命化し、党機構とプロレタリア  
一独裁機構そのものを人民の手で全面的  
に再編するプロレタリア革命として問題解  
決を示したことである。

この事は、プロレタリア国家の修正主義  
に対して、従来、反官僚制や抽象的な反  
スターリン主義の立場をにかけていた観念  
論に対して鉄槌を下すものであった。

プロレタリア一独裁は、共産主義世界  
まで長い歴史の期間であるし、プロレタ  
リア一独裁を打ちたてても墮落する部分  
が現実にあらわれている状況の下で、毛沢  
東の「プロレタリア一独裁下の階級闘争  
とプロレタリア一独裁の強化」の理論は、  
偉大な光を未来にも放つてであろう。マ  
ルクスが抽象的に予言し、レーニンが現実  
に予感したものを、毛沢東は革命理論と革  
命闘争として提起したのである。これに対  
し「間違っているも党は党だ」とか「上級  
の命令は絶対」とか官僚の立場に立つ修

正主義も、もはや貧弱なブルジョア政治家  
にすぎなくなっているのである。

プロレタリア文化大革命をめぐる理論は  
未だその全容が示されていないし、又部分  
的なあいまいさがあることもあきらかであ  
る。しかし、この革命闘争の實踐とその根  
本的理論において毛沢東理論が、マルクス  
・レーニン主義を新たな段階に引き上げた  
ことも一層あきらかである。

ニ、毛沢東思想は、帝国主義が全面的な  
崩壊に向かい社会主義が全世界的な  
勝利に向かう時代のマルクス・レー  
ニン主義である。

世界資本主義が、帝国主義段階に到達し、  
世界資本主義として成熟し最高の段階に到  
達したとき、レーニンはこの帝国主義を分  
析しその本質と法則を暴露し、プロレタリ  
ア革命の戦略と原則をあきらかに示した。そ  
して、ロシア・プロレタリアートの先頭に  
立ってロシア革命をなした。だが、そ  
の後の国際共産主義運動と後継者達は第二  
次帝国主義戦争の準備と進行、終結の中で、  
誤謬を繰り返えし、レーニンの教えにそむ  
いてナチスドイツ帝国主義との取引や各国  
のプロレタリア革命を抑制するなど(スベ

インやフランス、ギリシャなど)プロレタ  
リア一独裁を墮落させるだけでなく世界  
革命を破壊してきたのである。

今日では、米帝国主義に屈服しそれとの  
取引に熱中しているのだ。  
かかる中で、帝国主義の矛盾が一層深化  
し世界化し、「後進国」をもまきこんだ全  
世界プロレタリア革命闘争の条件が創り上  
げられた条件のもとで、毛沢東はレーニン  
主義を一層豊富化し、緻密化し、マルクス  
・レーニン主義を防御しかつ発展せしめた  
のである。全世界のプロレタリアートと人  
民は、世界革命をめざし決起している。疑  
いもなくアメリカ帝国主義を先頭とする帝  
国主義とその手先たる買弁ブルジョアジー、  
官僚ブルジョアジー、地主は、全世界的反  
抗の前ですすまず危機を深めている。

林彪も言うように「われわれの時代は、  
世界の資本主義と帝国主義が滅亡に向かい、  
社会主義と共産主義が勝利に向かう時代で  
ある。毛沢東同志の人民戦争に對する理論  
は、たんに中国革命の産物であるばかりで  
なく、時代の特徴をもそなえている。第二  
次世界大戦後における各国人民の革命闘争  
の新しい経験はたえまなく毛沢東思想が世

界の革命的人民の共同財産であることを証明  
明している」(『人民戦争の勝利万歳』)

又、「第二次大戦後、北アメリカ、西ヨー  
ロッパの資本主義国のプロレタリア革命運動  
はさまざま原因によって一時おくらされて  
いるが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ  
人民の革命運動は、すばらしい勢いで発展し  
てきた」(同前)

我々は、「プロレタリア革命運動」が「一  
時的におくらされている」「さまざま原因」  
について、深く自覚している。マルクス・レ  
ーニン主義、毛沢東思想を固く守り、それを  
日本革命闘争に真に具体化し闘争することが  
不十分だからである。マルクス・レーニン主  
義と毛沢東思想を身につけ、日本階級闘争の  
ルツボの中に適用する中で、必ず又、新しい  
理論と革命戦略が登場し、我々もマルクス・  
レーニン主義を発展させ豊富化する歴史の光  
榮を担うであろう。

以下続く

### 奴留由文子さんに支援と激励を

#### 「東京励ます会」結成準備会

全同志諸君

我々は、九州の地で苛酷な弾圧と抑圧に  
抗して教育の反動化と闘っている、我々の  
敬愛すべき仲間、奴留由文子さんの不幸な  
交通事故を知らせ、全ての同志諸君が一刻  
も早く支援と激励の手をさしのべられるよ  
う心からよびかける。

先日「福岡励ます会」事務局より連絡が  
あったところによると、奴留由文子さんは、  
かねてより病弱な身に鉄の車体を受けて胸  
部を中心に全身打撲の重傷を負い、いまだ  
入院中である。同志諸君もかねてから周知  
の通り、奴留由文子さんは、ただでさえも  
激しい全国的な教育反動化の中で、現に完  
全に非合法活動を強いられ、「日の丸会」な  
る右翼団体が市や県の公然たる支持の下で  
動きまわっている福岡市で、学校当局を相  
手に敢然と闘ってきた。今年で弾圧事件発  
生以来既に四年目になる今年に入ってから  
は、修猷館高校を相手として不当処分撤回

の行政訴訟を行ない、公判中に出された学  
校当局の新たな処分「退学処分」という弾  
圧にも抗して、まさに身を粉にして必死に  
闘ってきているのだ！奴留由文子さんは、  
まぎれもなく我々が同志的連帯を堅く結ぶ  
べき人であり、彼女の今日の危機に對して  
全力を挙げて支えていくことは我々の重要  
な任務の一つである！彼女は、いま莫大  
な金額を要求される裁判闘争に多大の負債  
をかかえ、その上今度の事故によってその  
負債の額はケタ違いに増大することとなり、  
いまや唯一の闘いの裁判闘争は経済的に極  
めて困難な時点にある。この危機を是が非  
でも克服するため同志諸君の積極的な多額  
のカンパと激励を要請したい！

支援激励先 福岡市三宅本町七〇七

山下勝泰 坂方 奴留由文子

カンパ納付先 レボリューション社

(三三三)一三六〇・責任者 東岡 徹まで

ロシア革命50周年記念11・7集会の呼びかけ

同志諸君、ロシア革命50周年を迎え、われわれは心から祝うとともに、ロシア革命が切り拓いた道、めざした道を断固としてつき進み、発展させるため、次のような旗をかけた記念集会をもつ。同志諸君の多数の結束を心からよびかける。

レーニンとロシア革命が血路を切り拓いたプロレタリア世界革命—断絶革命の象徴を断固遂行しよう！

- \* 不朽のマルクス・レーニン主義万歳！
- \* 必勝不敗の毛沢東思想万歳！
- \* ゲバラ、カストロを先頭とするO.L.A.B路線の前進万歳！
- \* ウェトナム革命と連帯し、解放民族戦線と共に闘おう！
- \* アジア、アフリカ、ラテンアメリカの武装解放闘争を支持し、共に闘おう！

万国の労働者、被抑圧人民は団結せよ！

- \* 一切の軍事基地撤去、軍事生産、輸送阻止！
- \* 敵階級を徹底させた10・8羽田闘争をさらに発展させ、佐藤訪米を英力で阻止しよう！
- \* 帝国主義的労働運動を粉砕し、革命的労働運動をつくりあげよう！
- \* 共社をはじめとするすべての修正主義、中間主義、合法主義を粉砕しよう！
- \* すべての革命派は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の旗のもと、闘争戦線に結束しよう！

ロシア革命50周年記念11・7集会実行委員会

- ＜参加団体＞
- マルクス主義研究会
  - 社会主義労働者同盟
  - 神奈川日中青年共闘会議
  - 反帝平和協議会
  - 社会主義学生同盟（マルクス・レーニン主義派）

- \* 全世界人民の敵、アメリカ帝国主義打倒！
- \* 日本プロレタリアートとアジア人民の力で、日本帝国主義—資本家階級を打倒しよう！
- \* 米日帝国主義のアジア侵略拠点、沖縄の解放闘争を推進しよう！

歩哨

十・八闘争に対する反全学連キャンペーンと予想された大弾圧が激しく行われている。ますます明らかになってきている。

この中で、真の革命派と反革命派はいよいよはっきりとその姿を浮び上らせている。闘争のために、困難で多忙な時期ではある「反動勢力と極左的な反革命分子の衝突」が、是非、時間をさいて、深く学習してはなる。珍語々をもて遊び、自らの主体的責任を放棄した、かつ反全学連キャンペーンの一大分野を担当している代々木、その他の社民は、闘う人民とは無縁である。そのことは、断固とした支持と連帯をよせるサイゴン学生連合を始め、ベトナム人民、中国人人民の声明、激しく闘われている米国人人民の反戦闘争の高揚を見る時、ますます鮮明にされる。革命派は隊列を整え、世界のたたかり人民、全国の闘う労働者、人民と連帯して、断乎たる追撃と復讐に立ち上がる！

わが全学連内部にも、この困難な時期に、社民と結託して、乗り切ろうとする一部の諸君が存在する。その革命理論の一貫性をなすと、思想の社民性の故に、十・八闘争の意義と教訓を無にする諸君を糾弾し、この闘争の革命的意義と教訓を自らのものとす。我々の闘い、思想、理論を更に発展させよう！

十一月七日は、あの偉大なロシア革命より五〇年目に当る。ロシア革命を指導したマルクス・レーニン主義を、真に引き継ぎ、我々の革命闘争思想、理論の発展のために、ロシア革命五〇周年を記念して、「マルクス・レーニン主義と毛沢東思想」の第二回を発表した。この思想をもって、十一・七ロシア革命五〇周年記念集会を成功させよう！

せよう！

ベトナム人民の闘いは新たな発展を示し、それにつれて、政府の沖縄政策の反動性は、当面の秋の闘争、今後のベトナム、沖縄

十一月七日は、あの偉大なロシア革命より五〇年目に当る。ロシア革命を指導した、マルクス・レーニン主義を、真に引き継ぎ、我々の革命闘争思想、理論の発展のために、ロシア革命五〇周年を記念して、「マルクス・レーニン主義と毛沢東思想」の第二回を発表した。この思想をもって、十一・七

三里塚闘争、ブルジョアジーの動きの詳細、その他いくつか誌上に載せることのできなかつた事柄についても、同志諸君に注意を払うよう望む。

我々の活動は大弾圧の中で行われる。革命的警戒心を持ち、困難を克服して闘おう！

ロシア革命50周年記念11・7集会

日時 11月7日（火）

午後6時～10時

会場 全通会館9階ホール  
（水道橋下車2分）

\* 集会内容

- 一、映画（キューバ革命記録映画）
- 一、報告
- マルクス主義研究会代表
- 社会主義学生同盟（ML派）代表
- 一、意見発表
- 各参加団体・個人
- 一、決議
- 一、宣言

11・7集会実行委員会連絡先

△連絡先▽

\* 社会学同ML派  
電話（三六三）二六〇〇

\* マル研  
電話（四四二六）三三一  
九五三五

社学同（マルクス・レーニン主義派）政治機関誌

赤 光 （三五号）

発行日 一九六七年十月二一日

発行者 社会主義学生同盟中央執行委員会

編集者 中央執行委員会機関紙編集部

連絡先 東京都千代田区神田神保町二一二八

日新ビル内

レポルンソン社

電話 (二六二) 一一二六〇番